



©早稲田スポーツ新聞会

プロフィール

永田 隆憲
生年月日 1966年1月12日生
1984年3月 筑紫高校卒業 9期生

経歴

1981. 4月 福岡県立筑紫高等学校ラグビー部入部
1983. 8月 高校日本代表(NZ遠征)
12月 全国大会出場
1984. 4月 早稲田大学ラグビー蹴球部入部
8月 U19日本代表(豪州遠征:主将)
1988. 1月 第24回大学選手権優勝(早稲田大学:主将)、
第25回日本選手権優勝
4月 九州電力(株)ラグビー部入部
10月 日本代表(captain:対オックスフォード大学)
九州代表(~1996)
九州電力ラグビー部主将(~1993.3月)

1999. 3月 九州電力ラグビー部コーチ(~同7月)
2000. 3月 九州代表監督(~2005)
2004.10月 日本選抜コーチ(第19回アジアラグビーフットボール大会優勝)
2005. 4月 日本B代表監督(NZ U来日シリーズ)
2006. 4月 日本代表FWコーチ
2007. 5月 ワールドカップ2007
日本代表テクニカルマネージャー(~同12月)
2008. 4月 九州電力キューデンヴォルテクスアシスタントコーチ(FW担当)
2010. 4月 九州電力キューデンヴォルテクスFWコーチ(~2001.3月)
2020. 2月 九州ラグビーフットボール協会 書記長
2023. 6月 九州電力キューデンヴォルテクスジュニアラグビーアカデミーGM

人生の原点としての筑紫ラグビー

還暦を目前に控える年になりましたが、今でも九州ラグビー協会、キューデンヴォルテクスジュニアアカデミーとどっぷりとラグビーに関わっています。その原点は、なんといっても筑紫ラグビーです。それでは、筑紫ラグビーとの出会いから始めましょう。後に東福岡高校との死闘を何度も演じた西村監督とは同じ春日中学校の同級生。私は軟式テニス部、西村は野球部でした。当時の筑紫高校には野球部がありませんでしたので、西村は合格したらラグビー、私は先輩がいたのでテニスからラグビーで迷っていました。入学後、下駄箱を出てテニス部を見学に行こうとしたところ、出たすぐの校舎とグラウンドの間の狭いところで、城戸先生が「お前どこに行きようとや、ラグビーば見ていかんや」と満面の笑みでお誘いを受けたのが全ての始まり。ご存じのとおり、抗う術はなく一度もテニスコートに行かないままラグビー部の門をたたくことになりました。受験期で太っていた私に示されたポジションは、当然プロップ。今となっては天職との出会いですが、初心者の私には、毎日のランパスと延々と続く移動スクラムの練習は本当に苦痛でした。しっかり鍛えていただいたおかげで、高校3年生の夏に高校日本代表に選ばれてNZ遠征に行くことができました。外国人選手との試合はもちろんラグビーを国技とする文化に触れた経験は大きく、ラグビーへ取組む姿勢が180度変わりました。

この遠征で180度変わったことがもう一つありました。理系コースにいたんですが、遠征から帰ると夏休み中の講座で数学や物理の教科書

の授業は全て終了しており、理系大学は断念、浪人を覚悟せざるを得ない事態に。ここで城戸先生から「高校日本代表までなって大学でラグビーばせんつもりや」の一喝。当時まだ無名の筑紫高校には推薦の話はこの大学からもなかったことから、とにかくラグビー強豪大学を目指すため文系コースへの変更を決断し、赤本片手に、明治、同志社、早稲田に挑戦した結果、早稲田に合格することができました。

恩師である城戸先生との出会いがきっかけとなった筑紫ラグビーを通じた経験は、私の人生にとって本当に大きな転機となりました。また、ラグビーというスポーツは、出身高校や大学、競技レベルに関係なく親しくなれるという、他のスポーツにはない不思議なところがあります。社会人になってラグビーを通じた仲間に、様々な場面で助けられることがたくさんありました。苦しい思いから始まったラグビーですが、今ではその縁に感謝しかありません。

最後に、現役のみなさん確かにラグビーと勉強の両立は大変かもしれませんが、簡単ではないからこそ挑戦する価値があります。ヒガシに挑み続けることと同じくらいの思いを持って挑戦し続けてください。それが筑紫ラグビーの文化であり、筑紫魂の真髄だと思っています。そのことは、必ずやその後の人生の大きな糧となります。毎日を大切に筑紫ラグビーを存分に楽しんでください。



©SHIZUOKA BlueRevs

プロフィール

日野 剛志
生年月日 1990年1月20日生
2008年3月 筑紫高校卒業 33期生

経歴

同志社大学
ヤマハ発動機ジュビロ(現:静岡ブルーレヴズ)
サンウルブズ
トゥールーズ(TOP14)
日本代表(5キャップ)



©SHIZUOKA BlueRevs

筑紫魂を胸に、さらなる飛躍を願って

筑紫高校ラグビー部、創部50周年おめでとうございます。50年という長い間、ラグビー部が筑紫魂の火を途切れさすことなくこの節目の年を迎えられたことに、心よりお祝い申し上げます。

私自身も筑紫高校ラグビー部での3年間は濃密で一緒に汗を流した仲間達をファミリーと呼び合うほど私の人生にとって貴重な経験となりました。

思い返してみると勝利の喜びや敗北の悔しさの記憶もありますが、日々の辛い練習やファミリー達との学校生活も忘れることのできない一生の思い出です。

特にグラウンド内外問わず「挨拶」「感謝の気持ち」といったラグーマンである前に人として大事な部分も鍛えていただきました。それは現在にも繋がっていて、ラグビー選手としてプレーできているこの環境は当たり前ではないし、チームをサポートしてくれる関係者・ファンがいるからチームは成り立ち、自分はラグビーができています。支えてもらっている事に感謝して勝って恩返しするために日々活動しています。

現役選手の皆さんには大きな可能性があります。花園を目指す中で人として成長してラグビーがずっと好きで、ラグビーとずっと関わってほしいです。私自身、高校時代は身体も小さく県選抜にも選ばれたことのない選手でしたが、諦めずに大学、社会人とプレーできる可能性を諦めなかった結果、日本代表になることができました。それは筑紫高校で人としてのベースを作ってもらえたからだと自信を持って言えます。

ぜひ皆さんには「筑紫魂」というOB・OGが繋いできた伝統を引き継ぎ、筑紫高校ラグビー部の看板を背負ってぜひ花園で新たな記憶を創っていただきたいです。

最後になりましたが、筑紫高校ラグビー部のさらなる飛躍とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



©SHIZUOKA BlueRevs

プロフィール

桑野 詠真
生年月日 1994年10月11日
2013年3月 筑紫高校卒業 38期生

経歴

筑紫高校
早稲田大学
静岡ブルーレヴズ(ヤマハ発動機ジュビロ)日本代表



Photo by Yuumi Ts



©SHIZUOKA BlueRevs

基本を極めて未来を切り拓く

この度はラグビー部創部50周年おめでとうございます。

筑紫高校38期卒 桑野詠真です。現在、リーグワン・静岡ブルーレヴズに所属しています。

私が筑紫高校ラグビー部の3年間で学んだ事は2つあります。

1つ目は『目標を立てそこに向かって努力し続けること』

2つ目は『当たり前のことを当たり前以上にやる』

ということです。『当たり前のことを当たり前以上にやる』ということは、ラグビーでいう基本プレーの徹底や声かけなどだけではなく、学校生活や私生活でも必要なことであると高校3年間を通して、ご指導いただきました。

私は筑紫高校を卒業後、早稲田大学に進学し、ヤマハ発動機ジュビロ(現在:静岡ブルーレヴズ)に入団いたしました。これを書いている2024年の現在はラグビー日本代表にも選んでいただき活動しています。

これまでの経験からも感じることは『当たり前のことを当たり前以上にやる』ことの重要性です。ゴミはちゃんと捨てる、自分のロッカーはいつも綺麗にしておく、道具は整理整頓する、挨拶をする、時間を守るなど誰もが出来るような事を徹底的にこだわり、やる遂げることで自分を律し、自身の目標やチームの目標を達成することに繋がります。そして、時には運をも引き寄せるということを経験してきました。

高校時代を振り返ると、『打倒東福岡・花園出場』を目標に部活に取り組

みました。出来る、出来ない、を最初から考えるのではなく、自分達の可能性信じて、チームメイトと協力し、時には本気でぶつかり合いながらも練習に取り組み、そして試合に挑みました。

高校3年時の春の大会では、東福岡の『国内83戦無敗』という記録を止め優勝する事が出来ました。ですが、秋の花園予選では決勝で敗れました。敗戦後は、毎日もっとこうしてればという悔しい思いでしたが同時に家族やチームメイト、先生達への感謝の想いに溢れました。苦しい時間も多かったですが、いま振り返ると高校3年間はすごく楽しい思い出でいっぱいです。

筑紫高校ラグビー部に在籍している皆さん、筑紫のラグビーを通して沢山チャレンジし沢山失敗をして成長してください。1日1日、自分は何を頑張るのか、どうやったらチームにいい影響を与えられるかを考え、過ごすことで必ず人としてもチームとしても成長出来ます。そして必ず継続してください。継続する事で意識が変わり、行動が変わり、人は成長しつづけます。皆さんの個人の目標やラグビー部の目標を達成するために日々『当たり前のことを当たり前以上に』という事を心の片隅に置いていてくれたら嬉しいです。そしてなにより、ラグビーだけでなく筑紫高校での高校生活を最大限に楽しんでください。

家族や先生、チームメイトに日々感謝し、過ごしてください。どんな時も筑紫高校のラグビーを応援しています！



プロフィール

南 早紀
生年月日 1995年11月18日
2014年3月 筑紫高校卒業 39期生

経歴

筑紫高校
日本体育大学
横河武蔵野アルテミ・スターズ
日本代表



ラグビーで培った成長と感謝

この度は創部50周年、誠にありがとうございます。

創部以来多くのラグビー選手、また社会に通用する人材を数多く輩出されると共に、ラグビーの普及と発展にご尽力されてきた関係者の皆様に敬意を表します。

50年という歴史の中で、先輩方が築き上げてきた筑紫高校ラグビー部の一員として、高校生活を過ごせたことを誇りに思います。また、女子ラグビー選手が高校進学後もラグビーを続けることが難しかった時代に、真っ先に受け入れてくださったことをこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

高校時代を振り返ると、筑紫高校を選んでよかった。筑紫高校でラグビーができてよかった。と思える3年間でした。

私が日本代表のキャプテンとして現役生活を送ることができたのは、筑紫高校ラグビー部での経験があったからです。ラグビー選手としての基盤を築いたことはもちろん、とても未熟だった私が人間的にも成長することができました。その経験は今の自分の考えや行動の原点の一つになっており、ラグビーとの関わりに感謝しています。

現役部員の皆さんは、自分たちの目標に向かって日々練習に励んでいることかと思います。もちろん目標を達成し、結果を出すことも大事ではありますが、私はその過程が人を成長させ、自信に繋がっていると思います。ラグビーを続けていく中で、自分の努力が報われなかったり、認めてもら

えないこともあるでしょう。たとえ自分が望んだ結果が得られなかったとしても、これまでの努力は決して無駄にはなりません。自分自身が積み重ねた日々の努力は、あなたが一番辛い時に支えてくれる原動力になります。

最後になりましたが、筑紫高校ラグビー部のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。



プロフィール

伊藤 優希
生年月日 1996年10月24日
2015年3月 筑紫高校卒業 40期生

経歴

筑紫高校
日本体育大学
三重パールズ
日本代表



筑紫高校ラグビー部での経験が人生の糧

40期生の伊藤優希です。

まずはじめに、女子で初心者の私を快くラグビー部に受け入れて下さった先生方、そして一緒に練習してくれた仲間へ、この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたいです。

ラグビー部に入学した当初はパスもまともに投げることができなかった私が、日本代表キャップをいただけたのは、筑紫高校のラグビー部での経験があったからだと思います。筑紫高校での思い出を振り返ると、正直なところ、楽しかったことよりもしんどかったことの方が多いですが、不思議と私の中で素敵な思い出となっており、卒業してからは筑紫高校で良かったなと思うことがたくさんあります。

現役生の皆さん、今は少し理不尽に感じることや、しんどいことが多いと思いますが、筑紫高校での経験はきっとこれからの人生の糧になると思います。

私は2023年に現役を引退し、今は次の夢に向かって勉強をしています。筑紫高校ラグビー部の活躍楽しみに頑張ります。

これからもずっと応援しています。



プロフィール

古田 真菜
生年月日 1997年11月16日
2016年3月 筑紫高校卒業 41期生

経歴

女子15人制日本代表、学生セブンス代表
出身クラブ等(一宮ラグビースクール、
寝屋川ラグビースクール、かしいヤングラガーズ、
福岡レディース、筑紫高校、立正大学、アルカス熊谷、
東京山九フェニックス)



筑紫高校ラグビー部での思い出

41期の古田真菜です。

現在は東京山九フェニックスでプレーしています。ポジションはセンターです。

入学時は体力もなく、毎日クタクタになりながら、部活に通っていました。中学校までラグビーはしていたものの、体力もパワーもない女子部員はラグビー部でやっていけないと2つ上の兄によく言われていました。それでも兄の反対を押し切り、体力もパワーもなく、ラグビー部に入部した私を兄以外の他の先輩たちが受け入れてくれたことにとても感謝しています。1年生の頃は、食トレやタイヤ引き、ランメニューなど、初めてのことであったのですが、同期のみんながいたから、乗り越えることができました。2年生の時には初めて試合に出ることができ、とても嬉しかったのを覚えています。そして、3年生の時には花園に出場しました。

すごく幸せなことであった一方で、プレッシャーを感じる日々が例年より長く続く中で、チームを引っ張っていた同期のみんなや支えていたマネージャーを誇りに感じたことを覚えています。

時間がある時に、同期や後輩が練習に付き合ってくれたおかげで、ラグビースキルが向上しました。また、オフの日には近くの公園で部員とタッチフットをして遊び、ラグビーの楽しさを学びました。今では一緒に遊んでいた後輩は義弟になりました。

先輩の南早紀さんと伊藤優希さん2人の活躍を近くで見て、影響を受け、

桜のジャージを着ることが夢ではなく目標になりました。また、同期や妹を含む後輩の女子部員の存在のおかげで、どんなことも部活の終わりに笑い話に変えて過ごしていました。

高校の3年間で筑紫高校で過ごせたことで、周りの方から影響を受け、たくさんの経験を得ることができました。3年間はきつい練習も多かったのですが、まわりのサポートもあり、今の私を形作る多くのことを学ぶことができました。特に筑紫の伝統であるタックルは、今の私の強みのプレーになっています。また高校で学んだ、目標を設定しスモールステップを積み重ねていくことは、今も大切にしていることのひとつです。先生方やスタッフをはじめ、一緒に切磋琢磨した部員や、サポートしてくれたマネージャーにとっても感謝しています。

後輩の皆さんは今は文武両道をし、大変なことも多いと思いますが、新しい刺激をたくさん受け、得た経験はこれからの自分たちへの糧になると思います。一緒に頑張れる友人や仲間がいることが、その時々々の環境を楽しめる理由になるので、一生懸命楽しんで高校生活を過ごしてください。



プロフィール

畑田 桜子
生年月日 2003年5月8日
2022年3月 筑紫高校卒業 47期生

経歴

筑紫高校
日本体育大学在学
女子15人制日本代表6キャップ



コロナ禍の中で育んだラグビー魂

こんにちは、47期の畑田桜子です。現在は日本体育大学ラグビー部に所属しています。私も歴代の先輩方と同じ様に魂のタックルを得意としています。

私の筑紫時代の思い出は、コロナ禍真っ只中ということもあり、対面で活動できるイベントが少なかったのですが、その中でも日々の練習は鮮明に覚えています。毎日、身体を限界まで追い込んで、男子の中でタックルを磨いてきました。華の女子高校生だというのに、毎日砂だらけ、傷だらけの青春の日々を送っていました。

私が最も印象に残っている試合は、1年生の時の花園県予選の準決勝の試合です。対戦相手は福岡工業高校でした。試合のラストワンプレーで逆転トライを決めて最後の最後に勝利した試合です。私はサイドラインの外側から試合を観ていましたが、手に汗握る展開で、私も先輩方のように、ラグビーのプレーを通して、人々に感動を与えることができる選手になりたいと強く思ったのを覚えています。

コロナ禍だったということもあり、様々な活動が制限されていましたが、その中でも部員のみならず工夫をして、オンラインでトレーニングを一緒にしたり、マインドフルネスのセッションを行ったり、母の日にはフラワーアレンジメントをしました。そういったこともいい思い出です。対面で活動することは、少なかったのですが、環境を言い訳にせずに充実した日々を送れたことは幸せでした。

高校時代を思い出そうとすると、ラグビー部のことしか頭に浮かんでこないくらい、ラグビー漬けの日々を送りました。高校の3年間の日々は間違いなく、私の財産です。

現役高校生の皆さんにも、今を全力で精一杯生きて、充実した筑紫ラグビー部の日々を送ってほしいと思います。

